

次に読むとき、イメージふくらむ

コレクション展

描かれた一葉と作品世界



1



2

令和2年

10月31日[土] ~ 12月20日[日]

1 正宗得三郎《一葉女史像》
2 木村莊八《にこりえ》

開館時間 9:00~16:30 (入館は16:00まで)

休館日 毎週月曜日(祝休日の場合は翌平日)、年末年始
※展示替えのため10月26日(月)~30日(金)、12月21日(月)~27日(日)は
休館いたします。

※ご来館の前にホームページ等で最新情報をご確認ください。

入館料 一般 300円、小中高生 100円

※樋口一葉の命日 11月23日(月・祝) は入館無料

※障害者手帳または特定疾患医療受給者証をお持ちの方と
その介助者は無料

主催 公益財団法人 台東区芸術文化財団

台東区立 一葉記念館

〒110-0012 東京都台東区竜泉3-18-4 TEL 03-3873-0004
東京メトロ日比谷線三ノ輪駅1b出口徒歩約10分
<https://www.taitocity.net/zaidan/ichiyo/>



たいとう文化発信

コレクション展 描かれた一葉の作品世界

一葉と一葉作品は、多くの画家たちに愛されてきました。鏗木清方や木村莊八などはその代表的な存在です。また洋画家の正宗得三郎は、一葉の妹・くにと交流があり、一葉の肖像写真とくにの印象を活かして《一葉女史像》を描き、その絵は当館開館の際に寄贈されました。

本展では、そんな一葉を愛し、縁のある画家たちが、一葉の姿や物語の場面・登場人物を描いた作品を展示いたします。

ほかにも、文芸雑誌や新聞掲載時の挿絵、作品に登場する場所や年中行事を描いた錦絵など、次に一葉作品を読んだときに文章で表現された作品世界をより具体的にイメージできるような、見て楽しむ作品を取り揃えました。どうぞご覧ください。



昇斎一景《東京名所四十八景 新よし原見かえり柳》

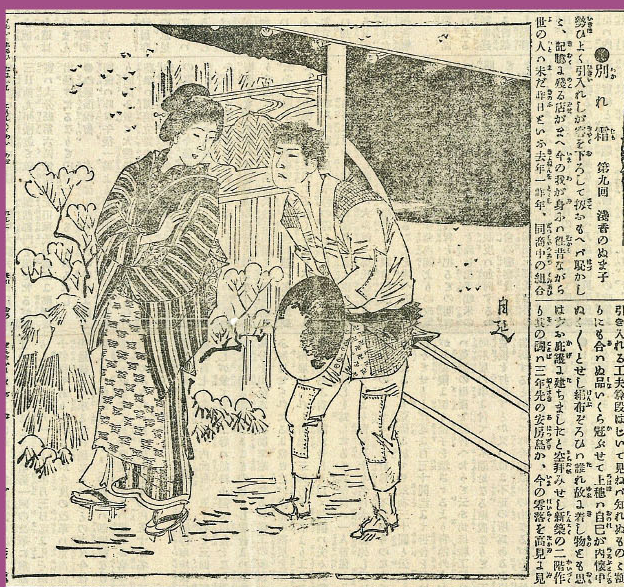
手前の大きな木が見返り柳。吉原に通う男性客を乗せた人力車や、提灯を持った女性などが描かれている。店が立ち並ぶ道は五十間道。この先に吉原大門がある。



瀧澤徳雄《たけくらべの美登利》

千束稲荷神社の祭礼の日の姿を描いた作品。提灯と同じ紋様が入った団扇を持っている。一葉は美登利の容姿を「色白に鼻筋とほりて、口もとは小さからねど締りたれば醜くならず、一つ一つに取たてゝは美人の鑑に遠けれど…」と描写している。

※美登利を描いた作品は会期中展示替えを行い、鏗木清方、水谷彩天など他の作家の作品も展示します。



楊州周延《「別れ霜」第9回挿絵》

『改進黨新聞』(明治25年4月9日付)掲載。「別れ霜」は一葉が「浅香のぬま子」名義で連載した。挿絵には割烹料理店の門の前で待つ芳之助とそれを呼びに来た店の女性が描かれている。

※会期中展示替えを行い、全15回をすべて公開いたします。

- 第1回～7回:10/31(土)～11/23(月・祝)
- 第8回～15回:11/25(水)～12/20(日)



作者不詳《「大つごもり」挿絵》

『太陽』第2巻第3号(明治29年2月)再掲載。雑誌掲載時には挿絵が効果的に使われ、本文にはない場面が挿絵として描かれることもあった。「大つごもり」の挿絵はその例で、本文中に石之助が懸け硯からお金を持ち出す場面は書かれていない。



皆様へのお願い

- 体調が優れない方のご来館はお控えください
 - 入館時の検温、チェックリスト記入にご協力ください
 - 館内では必ずマスクを着用ください
 - 館内設置のアルコール消毒液による手指の消毒にご協力ください
 - 他のお客様と適切な距離(1～2m程度)を空けてご観覧いただき、大きな声での会話はお控えください
- *ご来館の前にホームページをご確認ください

台東区立 一葉記念館

〒110-0012 東京都台東区電泉3-18-4
Tel 03-3873-0004
<https://www.taitocity.net/zaidan/ichiyo/>



記念館へのアクセス

- 地下鉄:日比谷線三ノ輪駅 徒歩10分
- 都バス(都08):日暮里駅・錦糸町駅より「電泉」下車 徒歩3分
- 北めぐりん:「一葉記念館入口」下車 徒歩2分
- ぐるーりめぐりん:「一葉記念館」下車 徒歩5分
- つくばエクスプレス 浅草駅 徒歩15分